

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年3月27日(2014.3.27)

【公開番号】特開2013-29619(P2013-29619A)

【公開日】平成25年2月7日(2013.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-007

【出願番号】特願2011-164778(P2011-164778)

【国際特許分類】

G 03 F	7/035	(2006.01)
G 03 F	7/00	(2006.01)
G 03 F	7/027	(2006.01)
G 03 F	7/032	(2006.01)
G 03 F	7/004	(2006.01)
C 08 G	18/38	(2006.01)
C 08 G	63/12	(2006.01)

【F I】

G 03 F	7/035	
G 03 F	7/00	5 0 3
G 03 F	7/027	5 1 3
G 03 F	7/032	5 0 2
G 03 F	7/004	5 0 5
G 03 F	7/004	5 0 1
C 08 G	18/38	Z
C 08 G	63/12	

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月6日(2014.2.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

置換オキシ基($R^{0\sim 6}O^-$)としては、 $R^{0\sim 6}$ が水素原子を除く一価の非金属原子団からなる基であるものを用いることができる。好ましい置換オキシ基としては、アルコキシ基、アリーロキシ基、アシリオキシ基、カルバモイルオキシ基、N-アルキルカルバモイルオキシ基、N-アリールカルバモイルオキシ基、N,N-ジアルキルカルバモイルオキシ基、N,N-ジアリールカルバモイルオキシ基、N-アルキル-N-アリールカルバモイルオキシ基、アルキルスルホキシ基、アリールスルホキシ基、ホスホノオキシ基、ホスホナトオキシ基を挙げることができる。これらにおけるアルキル基、ならびにアリール基としては前述のアルキル基、置換アルキル基ならびに、アリール基、置換アリール基として示したものを挙げることができる。また、アシリオキシ基におけるアシリル基($R^{0\sim 7}C_6O^-$)としては、 $R^{0\sim 7}$ が、先の例として挙げたアルキル基、置換アルキル基、アリール基ならびに置換アリール基のものを挙げができる。これらの置換基の中では、アルコキシ基、アリーロキシ基、アシリオキシ基、アリールスルホキシ基がより好ましい。好ましい置換オキシ基の具体例としては、メトキシ基、エトキシ基、プロピルオキシ基、イソプロピルオキシ基、ブチルオキシ基、ペンチルオキシ基、ヘキシリオキシ基、ドデシルオキシ基、ベンジルオキシ基、アリルオキシ基、フェネチルオキシ基、カルボキシエチルオキシ基、メトキシカルボニルエチルオキシ基、エトキシカルボニルエチルオキシ基、メ

トキシエトキシ基、フェノキシエトキシ基、メトキシエトキシエトキシ基、エトキシエトキシエトキシ基、モルホリノエトキシ基、モルホリノプロピルオキシ基、アリロキシエトキシエトキシ基、フェノキシ基、トリルオキシ基、キシリルオキシ基、メチルオキシ基、クメニルオキシ基、メトキシフェニルオキシ基、エトキシフェニルオキシ基、クロロフェニルオキシ基、プロモフェニルオキシ基、アセチルオキシ基、ベンゾイルオキシ基、ナフチルオキシ基、フェニルスルホニルオキシ基、ホスホノオキシ基、ホスホナトオキシ基等が挙げられる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0073

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0073】

(感光性組成物に含まれるその他の成分)

本発明の感光性組成物は、目的に応じて各種の感光性を発現しうる成分を含むことで感光性を発現することになる。感光性組成物に含まれる各成分は、露光領域のアルカリ可溶性が低下するネガ型の感光系であってもよく、露光領域のアルカリ可溶性が向上するポジ型の感光系であってもよい。

なお、感光性組成物に含まれる成分(化合物)は、必ずしも当該化合物自体が単独で感光性を有しなくてもよく、共存する他の成分との相互作用により、露光によりアルカリ可溶性が低下したり、向上したりする種々の化合物を適宜用いることができる。

以下、本発明に好適な感光性組成物に含まれる成分について説明する。

本発明の感光性組成物は、重合性化合物或いは架橋性化合物と、重合開始剤或いは酸発生剤とを含有することで、露光領域が重合又は架橋により硬化するネガ型の感光性組成物となる。

また、アルカリ可溶性樹脂と、該アルカリ可溶性樹脂と相互作用を形成してそのアルカリ可溶性を抑制する溶解抑制剤とを含有することで、露光領域において相互作用が解除され、アルカリ可溶性となるポジ型の感光性組成物となる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0190

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0190】

<実施例27～47、比較例3～4>

〔支持体の作製〕

実施例1と同様にして、支持体を作製した。

〔下塗り中間層の形成〕

下塗り液1を下記に示す下塗り液2にする以外は、実施例1と同様にして、下塗り中間層を作製した。

〔下塗り液2〕

・分子量3.1万の下記共重合体	0.3	g
・メタノール	100	g
・水	1	g